

役場周辺・大谷周辺

地区計画について



つかもと こうじ
塚本 光司
議員

質問 役場周辺と大谷地区で合計、約56ヘクタールの地区計画案が11月に示された。その概要、このタイミングによる説明会について伺う。

答弁（経済建設部長） 本年6月に新聞等で報道された、日本創成会議が地方から大都市への人口流出が現在のペースで続けば、30年後、人口の減少により全国の自治体の半数が自治体の運営が厳しくなり、将来消滅する可能性がある自治体が全国の半数にのぼるという予測が出された。本村においても平成16年以降、年間約190人ペースで人口

減少が続いている。特に近年は他市町への流出傾向が顕著である。こうした村民の他市町への流出を防ぎ、本村に長く住み続けていただき、既存集落の維持、活性化を図り、地域振興の推進など、村として今やらなければいけない施策と考える。説明会のタイミングは、県との事前協議が整い、必要な周知の期間を踏まえ、この時期になった。



地区計画説明会

質問 並行して国道125号バイパスの美浦トレイニング・センター進入路までの延伸も、この地区計画の施策に欠かせないと考えるが。

答弁（経済建設部長） 平成28年度までの開通ということで、県のほうにもお願いをし、今、事業を行っていただいている。

答弁（村長） 地区計画については、どれだけ県と打ち合わせを進めてきたか。いやというほど県へ行っている。ある程度の条件があった中、「美浦村の中では、県の示す条件では、なかなかこの地区計画は、地域の活性化にならない」という部分を踏まえ説明し、数字的なものを少し変えていただき、物事が進んでいる。国道125号バイパスは、30年以上も計画があった。県に対して、美浦村内外、県外にいる方も含めて

きるだけ応援し、用地交渉で同意が得られるような協力をし、28年度中には開通に持っていきたい意気込みを示してある。地権者の方の同意を得て進めていく中で、共有地の部分が一番頭の痛いところで、これは県にだけ任せておかないで、村もお手伝いをしながら、共有地の了解を少しずつ埋めていきたい。



地区計画に欠かせない国道125号バイパス延伸